



2020年3月期 決算説明資料

2020年5月27日

代表取締役社長
實吉 政知

	ページ
1. 新型コロナウイルスへの対応	…… 2- 5
2. 2020年3月期 決算	…… 6-26
3. 2020中期経営計画	…… 27-34



1. 新型コロナウイルスへの対応

● はじめに

このたびの新型コロナウイルス感染拡大に関し、罹患された皆様ならびに外出自粛など影響を受けている全ての皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

当社はお客様及び従業員の健康・安全の確保を最優先に、感染拡大防止に取り組むとともに、医療機器メーカーとしてのできる限りのサービス提供の継続をしてまいります。

● 事業継続のための優先順位

1. 技術サービス業務の維持

各医療施設での当社機器の安定操業が維持されるよう、技術サービス要員が、安全、かつタイムリーに稼働可能な体制を敷き、在宅勤務、時差出勤、フレックスタイム制度等を導入

2. 消耗品等、受注業務の維持

消耗品等の欠品を避けるため、生産従事者を2班に分け増員、作業場所も分離する等、万が一罹患者が出ても、生産が維持できる体制を構築

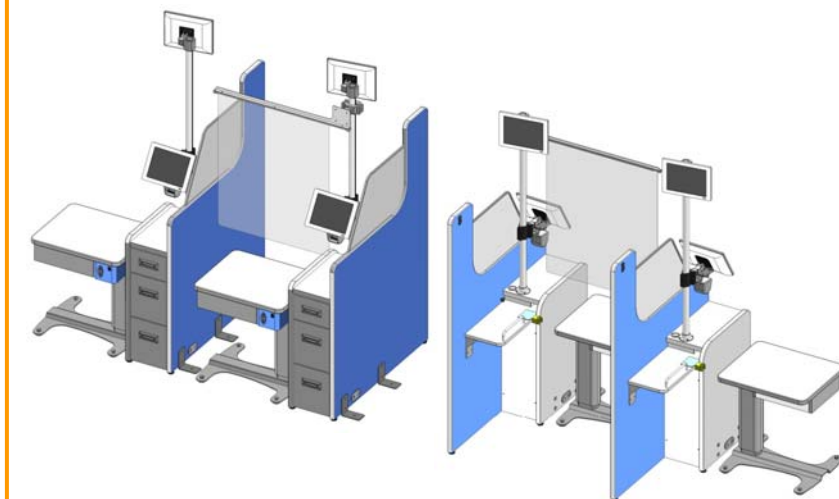
● 採血業務の感染予防対策品の提供開始

採血台飛沫防止シート

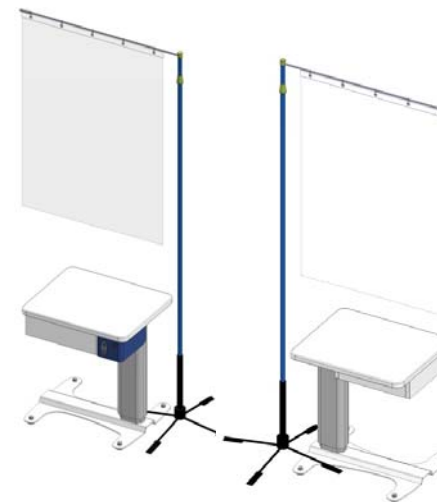
【主な特徴】

- ・ テクノメディカ採血台にジャストなサイズ
- ・ 採血患者の視認性を確保した透明シート仕様で、シートは拭き取り消毒可能
- ・ お客様自身で取付、組立が可能、また、不要の際はお客様自身で簡単に取り外し可能

【Aタイプ】（ポール取付型）



【Bタイプ】（スタンド型）





2020年3月期 決算

● 決算サマリー：売上高は過去最高を記録

(単位：百万円)

	2019/3期		2020/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,332	100.0%	9,810	100.0%	+5.1%
営業利益	1,517	16.3%	1,257	12.8%	△17.1%
経常利益	1,535	16.5%	1,269	12.9%	△17.3%
当期純利益	1,098	11.8%	1,000	10.2%	△8.9%
1株当たり純利益(円)	128.1	—	117.8	—	△8.0%
1株当たり純資産(円)	1,603	—	1,669	—	+4.1%

● テクノメディカの主要製品（品目別）

製品名							
採血管準備装置 (検体前処理装置)	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>			
	検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-navi</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p><その他> 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー測定システム 等</p>		
消耗品等		 <p>各種採血管</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>センサーカード</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハレンカップ</p>	<p><その他> 採血管準備装置および 検体検査装置の保守 等</p>

● 品目別売上高（全体）：採血管準備装置が2ケタ増収

（単位：百万円）

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	
					前期比
採血管準備装置	3,622	3,523	3,803	4,233	+11.3%
構成比	42.8%	40.7%	40.8%	43.2%	—
検体検査装置	534	517	620	570	△8.0%
構成比	6.3%	6.0%	6.6%	5.8%	—
消耗品等	4,299	4,613	4,908	5,006	+2.0%
構成比	50.8%	53.3%	52.6%	51.0%	—
合計	8,457	8,654	9,332	9,810	+5.1%

● 対前期比決算のポイント・トピックス

売上高 増加要因

採血管準備装置

⇒国内において大型更新需要が集中、*RFIDも増収に寄与
＜国内19%増、海外(中国減)29%減＞

検体検査装置

⇒国内外ともに足踏み状態
＜国内5%減、海外19%減＞

消耗品等

⇒装置の累計販売台数増加に伴う消耗品の好調
＜国内3%増、海外6%減＞

販管費 増加要因

採血管準備装置関連の研究開発費が増加
人件費も上昇（全国拠点でサービス体制の強化を実施）

トピックス

小型採血管準備装置を新発売、台湾支店および物流倉庫を開設
新型コロナウイルス感染症に対する事業継続体制を構築

*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

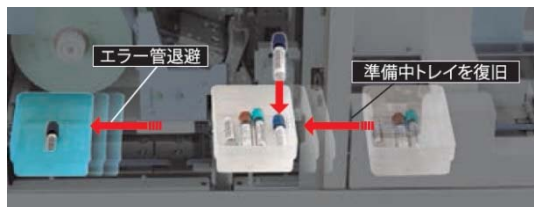
自動採血管準備装置
**BC・ROBO
8001**
RFID

4
つ
の
新
機
能



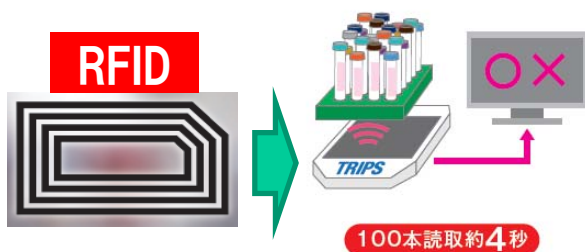
IoTサポート

⇒ 自動起動機能 等



自動復旧

⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化

⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習

⇒ メンテナンス時期のアラート 等



● 採血業務支援システム Assist More



採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクチャーを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

▶ 採血レコーダーシステム (オプション)



採血中の動画と音声を同時記録

- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

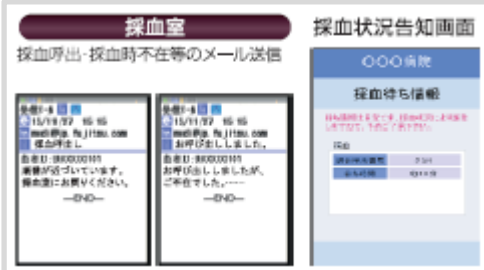
👤 アドミニストレータ (オプション)



採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

✉ Webメール採血呼出通知 (オプション)

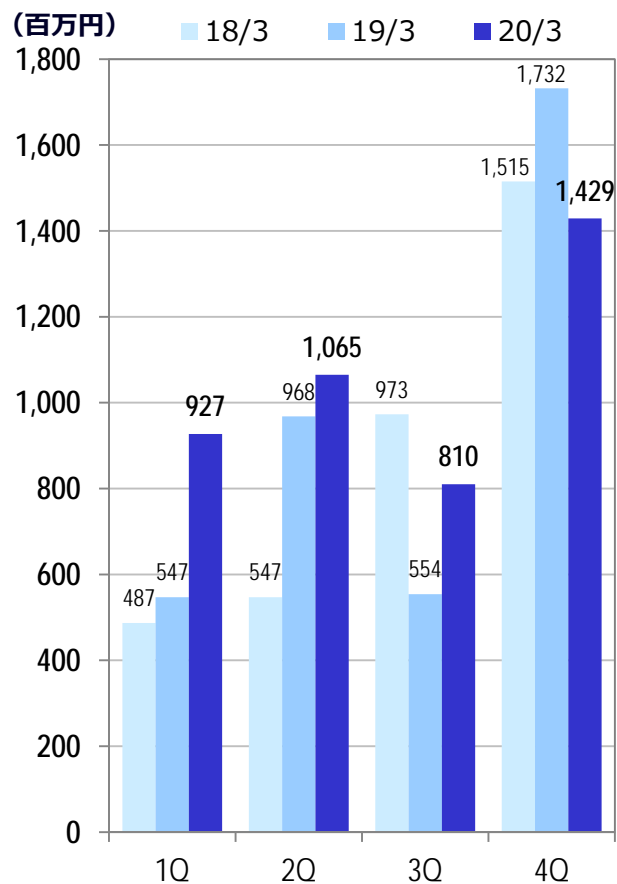


患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

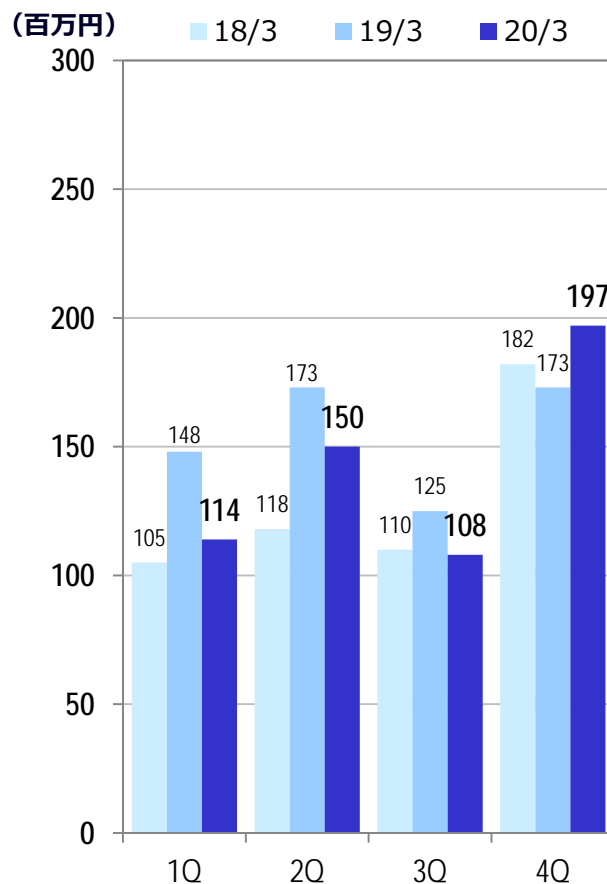
- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

● 品目別売上高（四半期別）

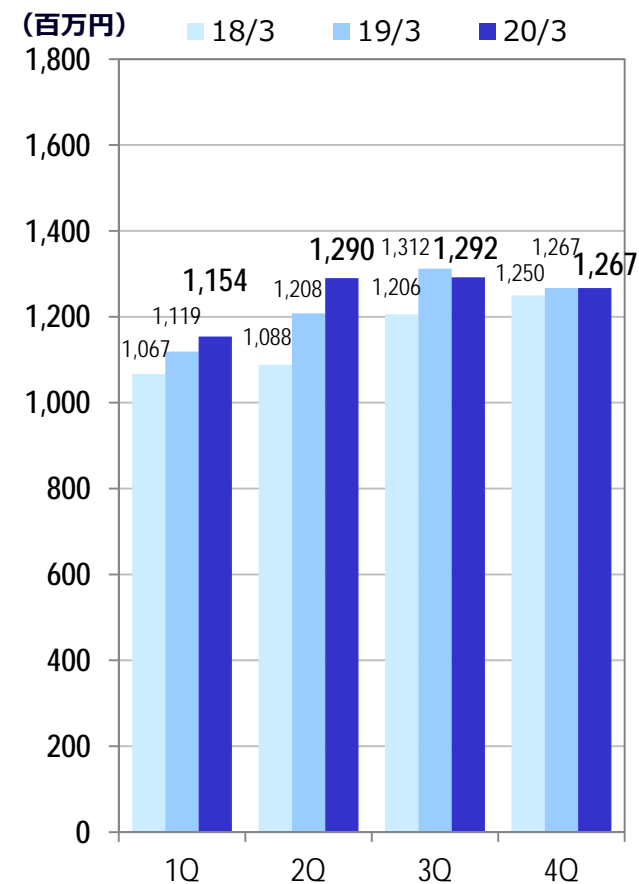
採血管準備装置



検体検査装置



消耗品等

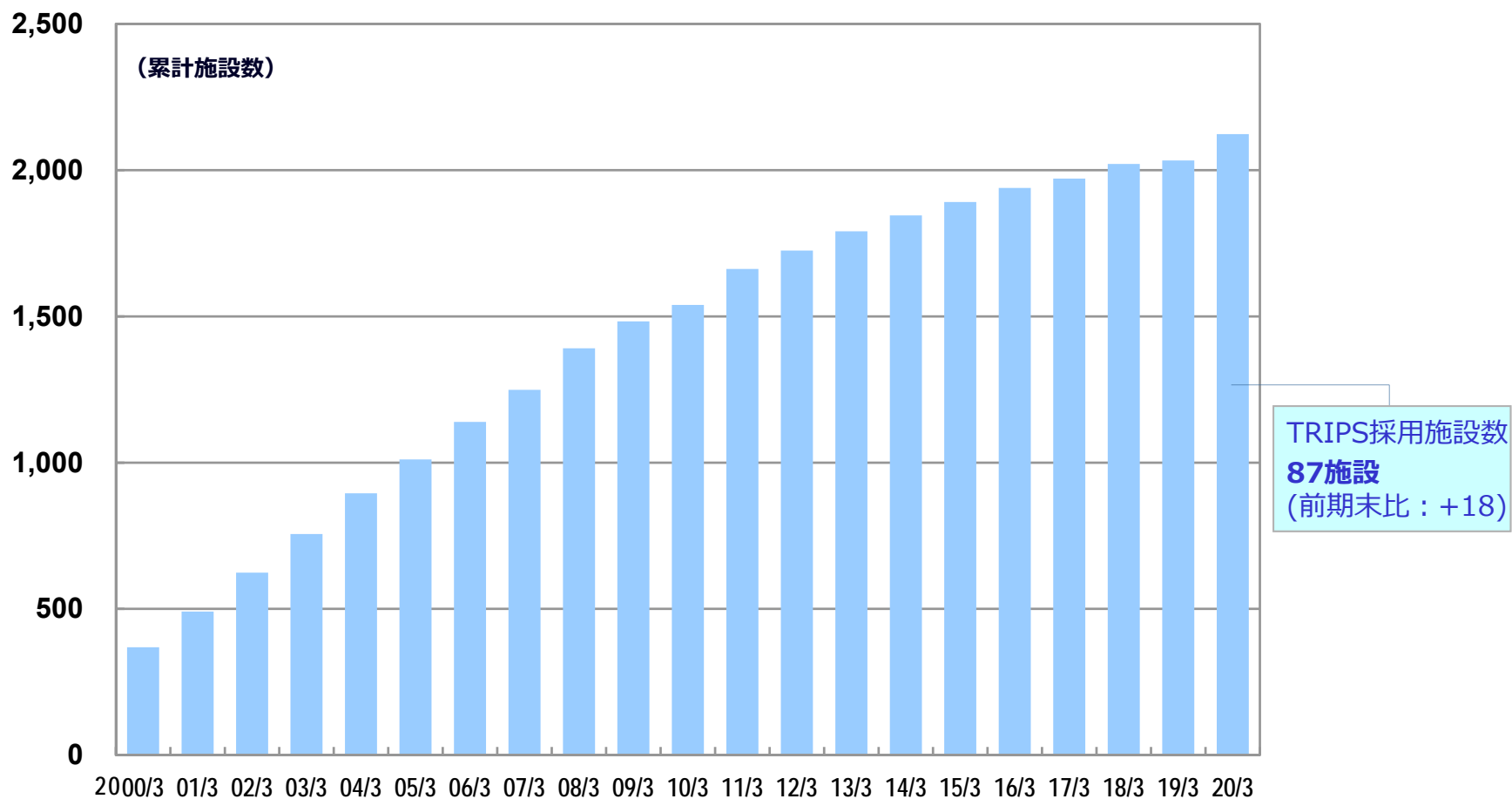


● 採血管準備装置 – BC・ROBO納入施設数

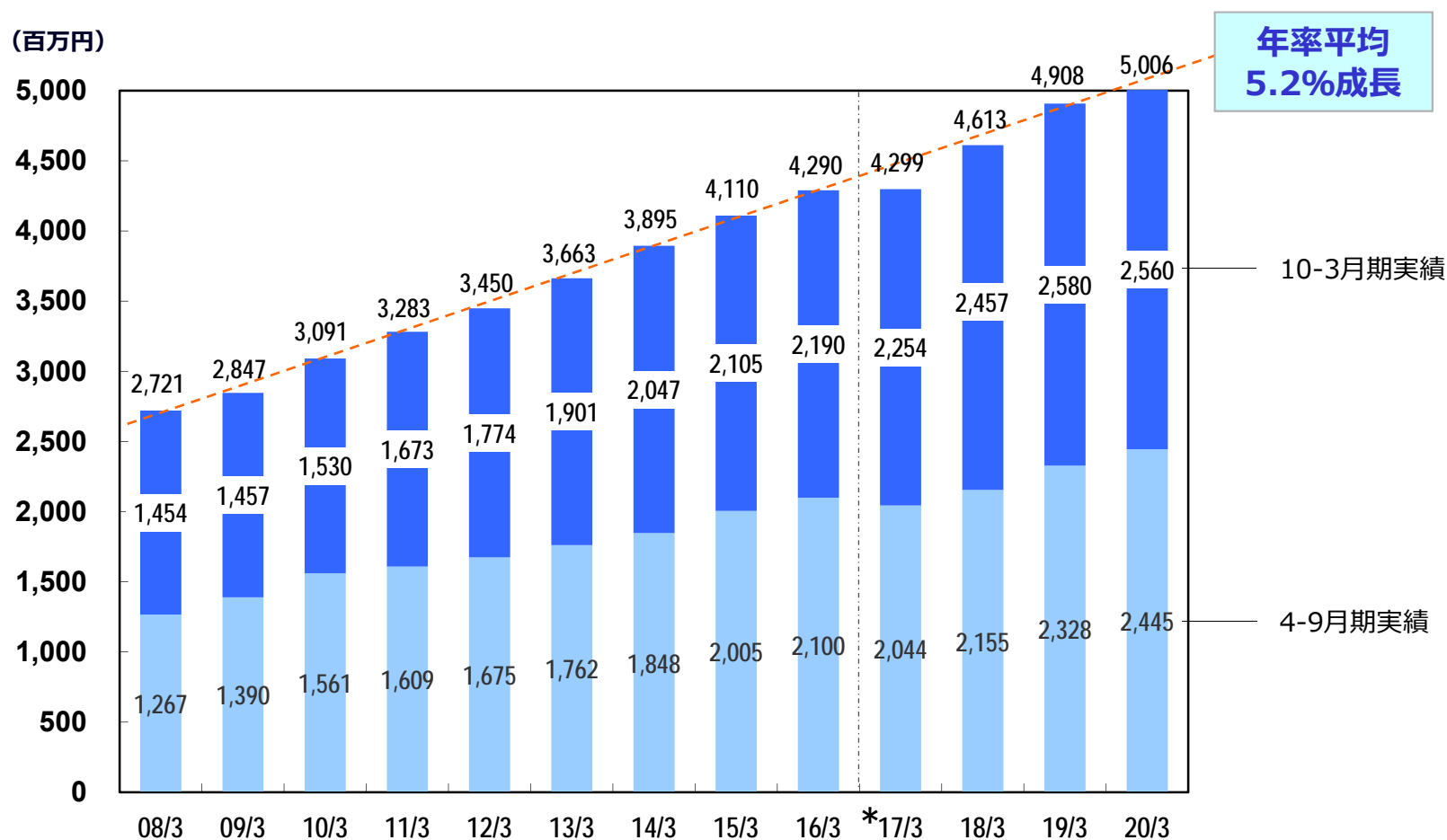
	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	
					前期差
納入施設数	275	298	313	429	+116
国内	177	209	163	271	+108
うち 新規	32	50	34	90	+56
うち 更新	145	159	129	181	+52
輸出	98	89	150	158	+8

- ・国内：新規導入は90施設、BC・ROBO7が増加
更新需要は継続、国内は大型案件受注
- ・輸出：中国市場で前年度からの反動減、新型コロナウイルス感染症の影響による案件遅延が発生

● 採血管準備装置 – 国内納入施設の推移

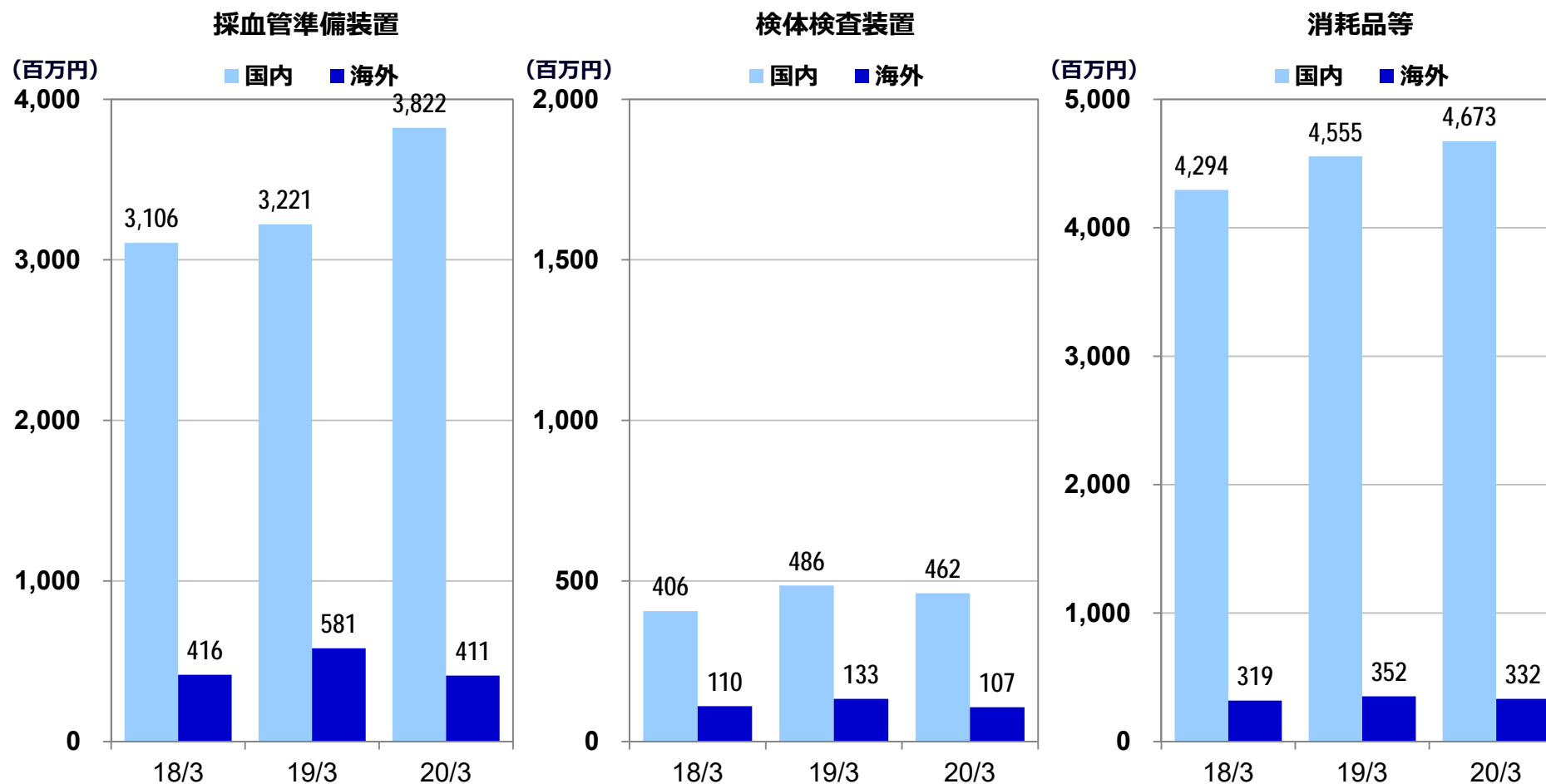


● 消耗品等（含む保守料）の売上高推移

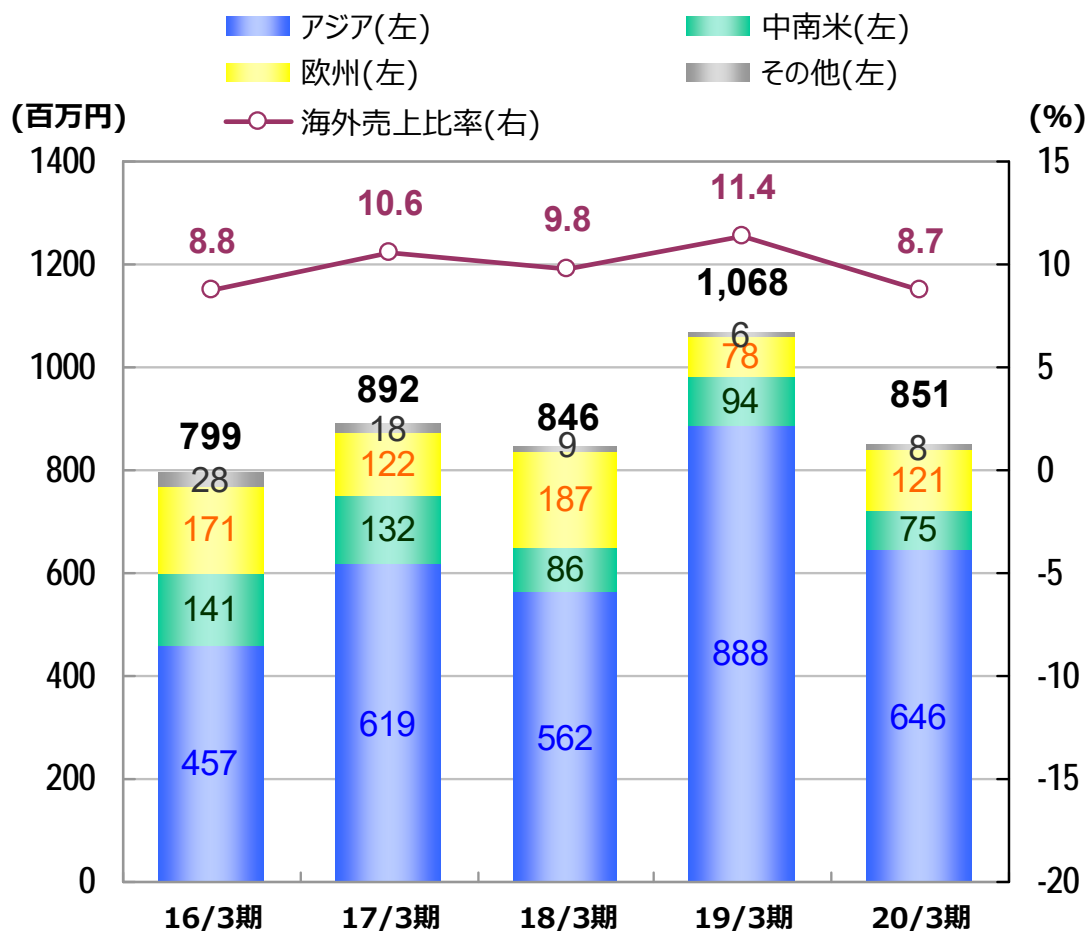


* 17/3期より保守料の計上方法を変更

● 品目別売上高（国内・海外別）：国内堅調、海外一服



● 海外売上高



[2020/3期]

採血管準備装置

…中国市場は案件が集中した前年度からの反動減、及び新型コロナウイルス感染症の影響による案件の遅延等

検体検査装置

… アジア、中南米向けで販売減少

消耗品等

… 前期比で減少

● 要約損益計算書

(単位：百万円)

	2019/3期		2020/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,332	100.0%	9,810	100.0%	+5.1%
売上原価	4,977	53.3%	5,312	54.1%	+6.7%
売上総利益	4,354	46.7%	4,498	45.9%	+3.3%
販売管理費	2,836	30.4%	3,240	33.0%	+14.2%
営業利益	1,517	16.3%	1,257	12.8%	△17.1%
営業外損益	17	—	11	—	—
経常利益	1,535	16.5%	1,269	12.9%	△17.3%
特別損益	14	—	69	—	—
法人税、調整額等	451	—	338	—	—
四半期純利益	1,098	11.8%	1,000	10.2%	△8.9%

【営業利益】 販売管理費が14%増加（採血管準備装置にかかる研究開発費の増加、サービス体制強化により人件費増加等）し、売上高の伸びで吸収しきれず

● 要約貸借対照表【資産の部】

(単位：百万円)

	2019/3期末		2020/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	14,386	89.1%	14,512	87.6%	+125
現預金	9,518		9,762		+243
売上債権	3,219		3,322		+102
棚卸資産	1,595		1,359		△236
その他流動資産	54		69		+15
固定資産	1,768	10.9%	2,057	12.4%	+289
有形固定資産	1,267		1,605		+337
無形固定資産	35		29		△6
投資等	465		423		△41
資産合計	16,155	100.0%	16,569	100.0%	+414

● 要約貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位：百万円)

	2019/3期末		2020/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,143	13.3%	2,227	13.4%	+83
買入債務	1,111		1,081		△30
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,031		1,145		+113
固定負債	269	1.7%	193	1.2%	△76
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	269		193		△76
負債合計	2,413	14.9%	2,420	14.6%	+7
純資産合計	13,741	85.1%	14,149	85.4%	+407
負債・純資産合計	16,155	100.0%	16,569	100.0%	+414

● 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	704	1,269	+565
投資活動によるキャッシュ・フロー	△247	△553	△305
財務活動によるキャッシュ・フロー	△385	△602	△217
現金・現金同等物の増加額	71	113	+42
現金・現金同等物の期首残高	7,129	7,200	+71
現金・現金同等物の期末残高	7,200	7,313	+113
研究開発費	559	676	+116
設備投資実施額	73	423	+350
減価償却実施額	70	94	+23

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、研究開発投資等に活用を検討

● トピックス-1【新製品】

➤ **高速処理の小型一体型 採血管準備装置 新発売**

BC・ROBO 7 **RFID** Smart & Compact



<主な特徴>

- ★連続発行時 2.5秒/本の高速処理
- ★幅21cm(A4用紙幅と同様)のコンパクトサイズ
- ★プリラベル探知機能、RFIDの拡張性(オプション)等上位機種なみの機能を用意

<ターゲット開拓市場>

- ・海外施設
- ・クリニック、検診センター、透析施設
- ・病院（救急外来、化学療法・・・）
- ・検査センター 他

● トピックス-2【支店新設】

➤ 2019年7月に台湾支店を開設



開所式の様子



● トピックス-3【物流倉庫開設】

▶ 2019年8月に横浜港北の物流倉庫開設

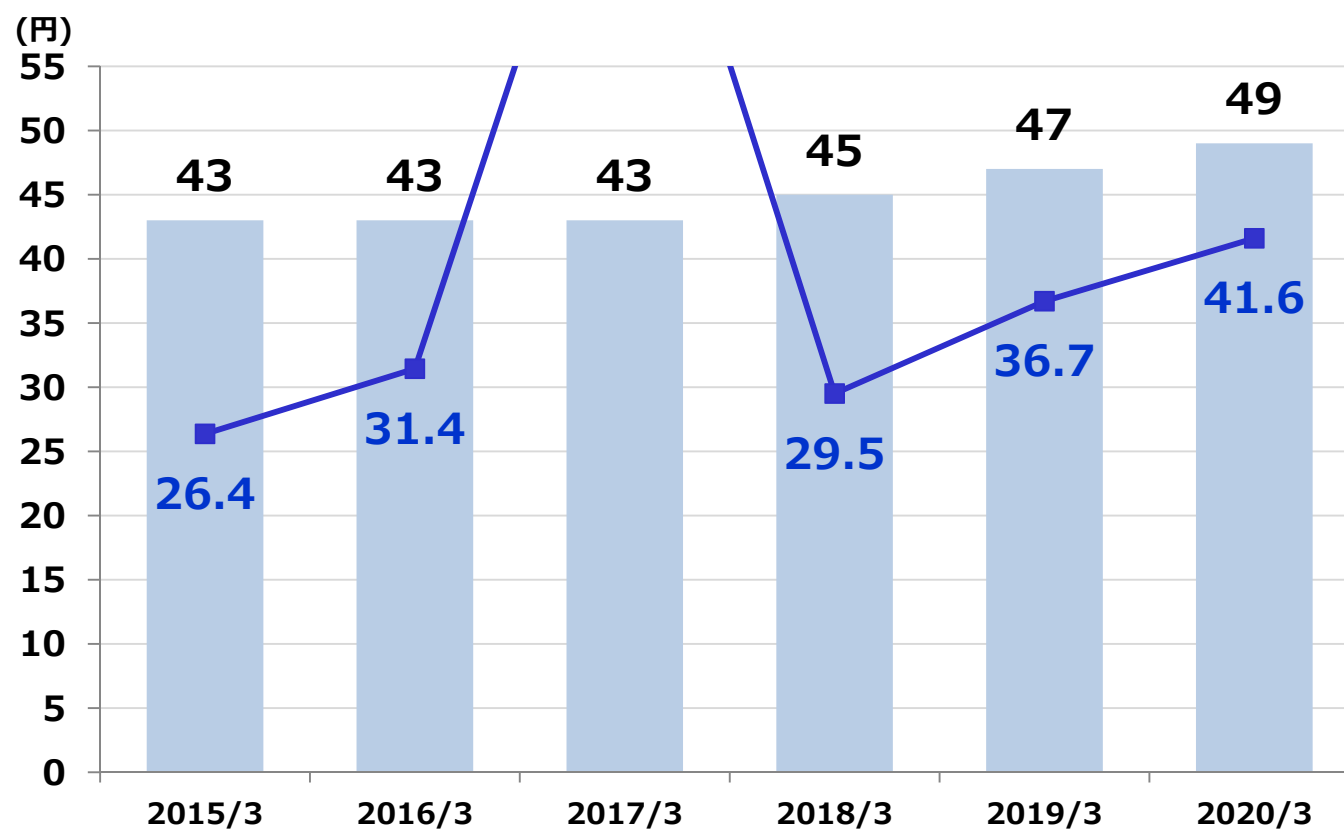
★売上増に伴う倉庫スペースの拡大

★採血管準備装置の出荷場集約



【配当性向の目標】

30%～40%を当面の目安として目指す





2020中期経営計画

2020年中期経営計画のもと、 更なる安定成長へ向けて

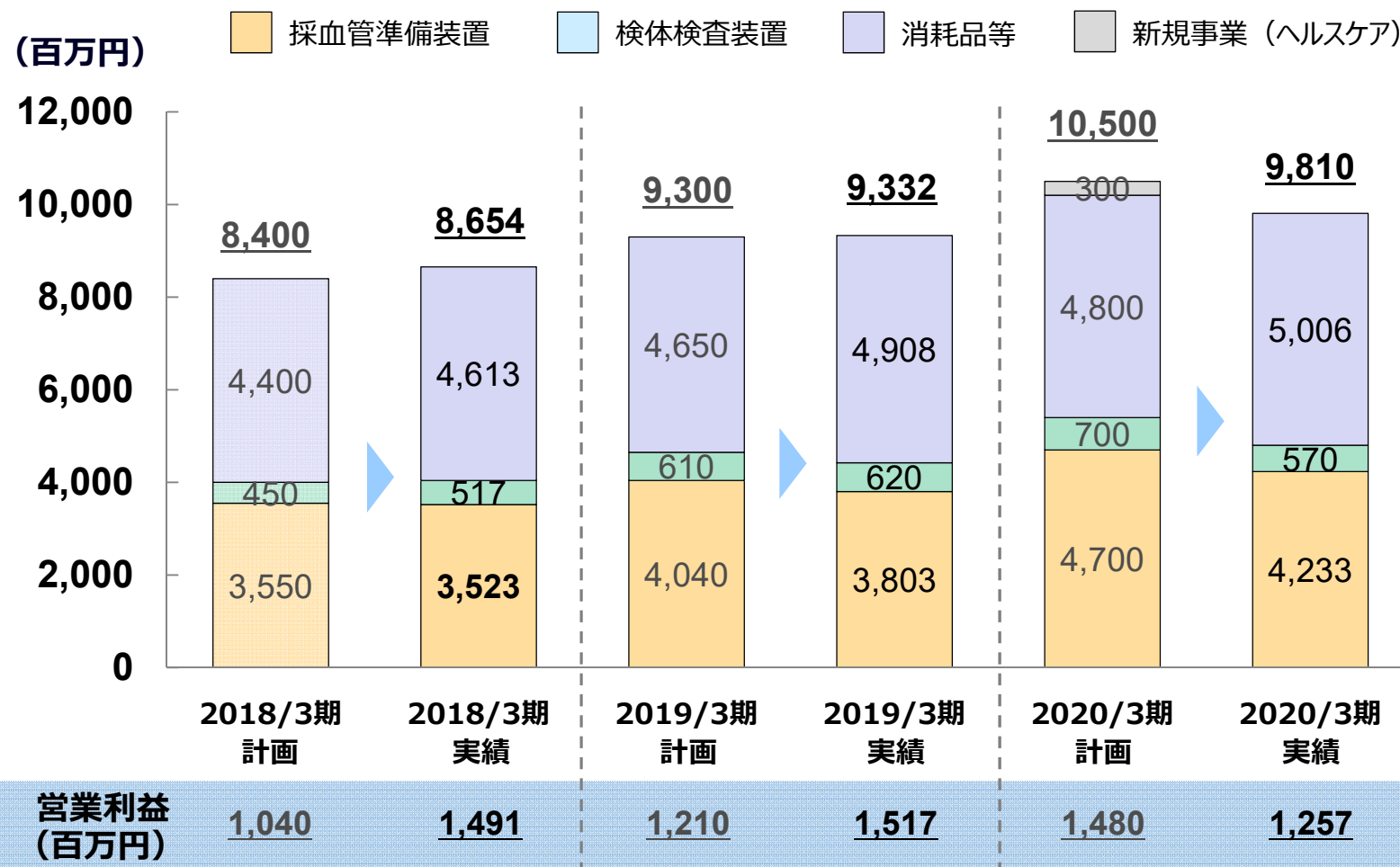
2017年度からの3か年中期経営計画期間中は、
着実な売り上げ増に伴い、計画以上の利益を確保

順調な事業拡大を図ることができた（次ページ参照）

2020年度からの新3か年中期計画は、
更なる安定成長を目指す

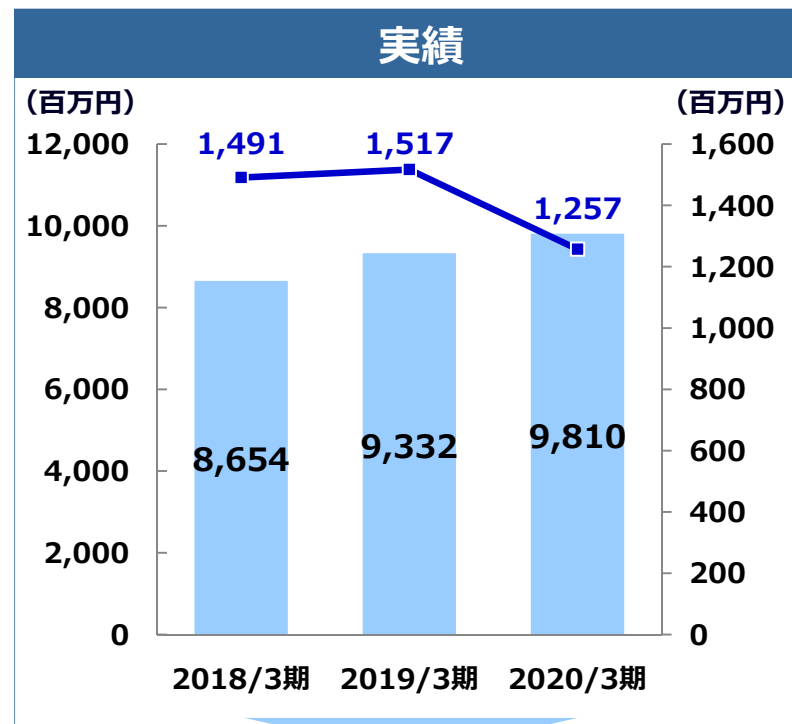
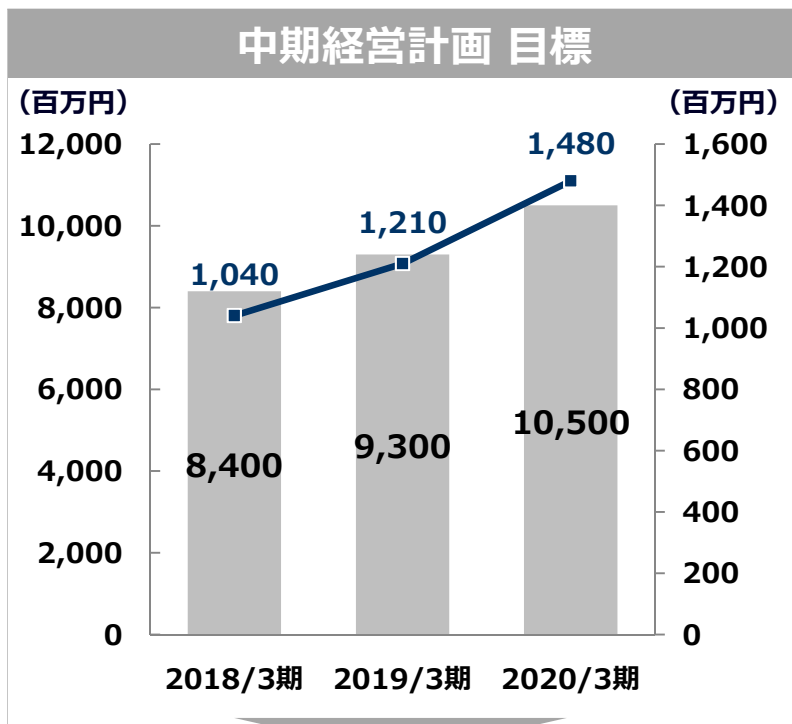
今後の持続的な成長に向け、
事業基盤の強化、積極的な研究開発投資を推進

2017・3か年中期経営計画 予実対比



2017・3か年中期経営計画 総括

■ / ■ 売上高 (左) ■ / ■ 営業利益 (右)

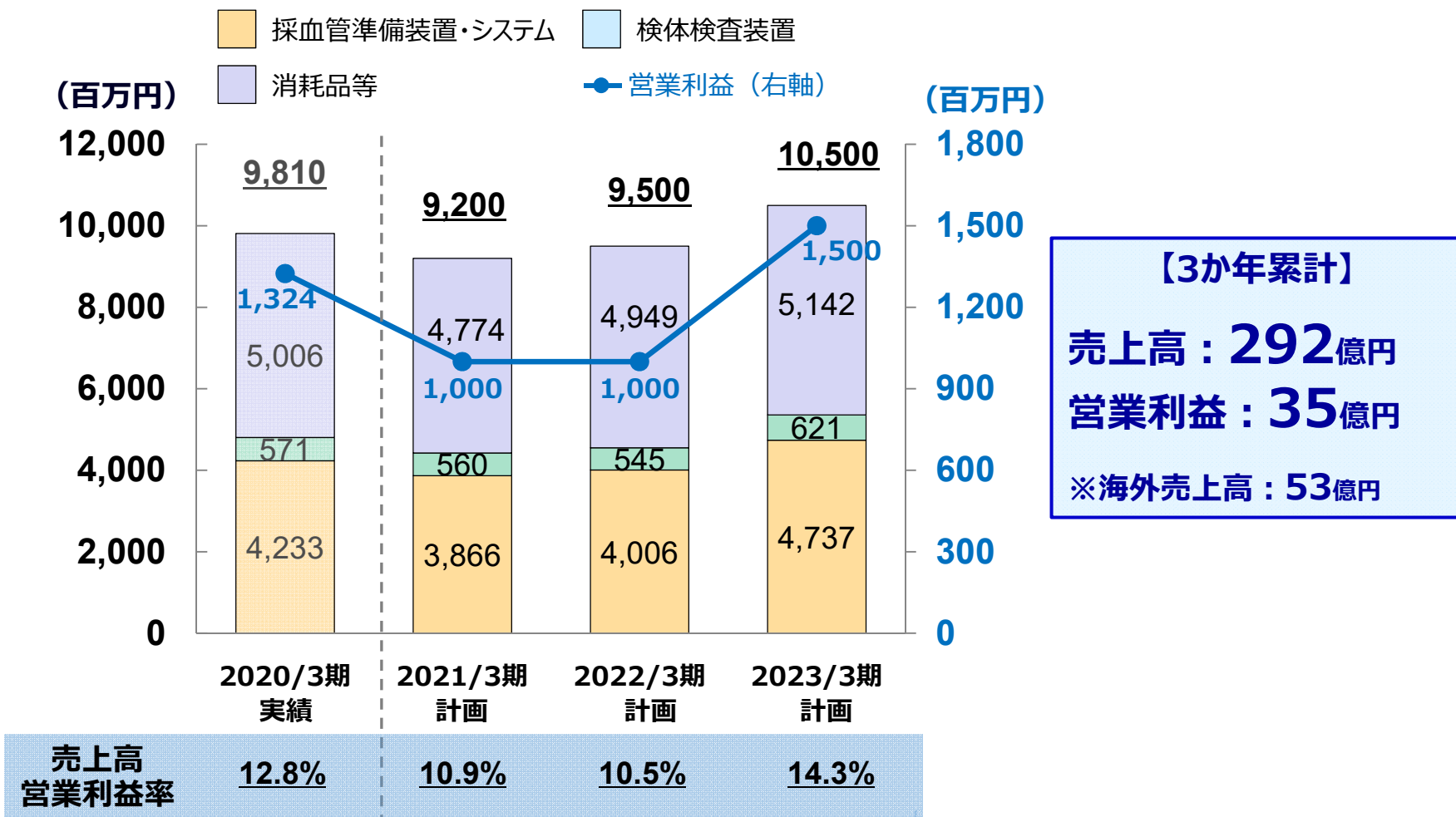


【3か年累計】
 売上高：282億円 / 営業利益：37.3億円

【3か年累計(実績)】
 売上高：278億円 / 営業利益：42.7億円

※ 3年間累計では、売上高は若干未達となるも、営業利益は大幅過達を実現

売上高（セグメント別）・利益計画



● 中型自動採血管準備装置・システム

New BC・ROBO-900



製品コンセプト

1. 省スペース 1ユニット8管種を実現
2. プリントカートリッジ方式で簡単交換
3. セミオートローディングによるラベルセット
4. プリント自動選択動作による休止時間低減
5. 装置自動起動と動作待機（朝のセットアップ）
6. 優先発行時のトレイ外部排出機能
7. 採血管ロットごとの有効期限チェック機能

● 研究開発

1. R&Dセンター設立による研究開発体制の集約

- ◆ 研究開発部門をR&Dセンターに集約
- ◆ 保有技術の集約と連携により市場への水平展開、及び開発スピードの向上を図る
- ◆ トータル開発コストの低減と品質向上

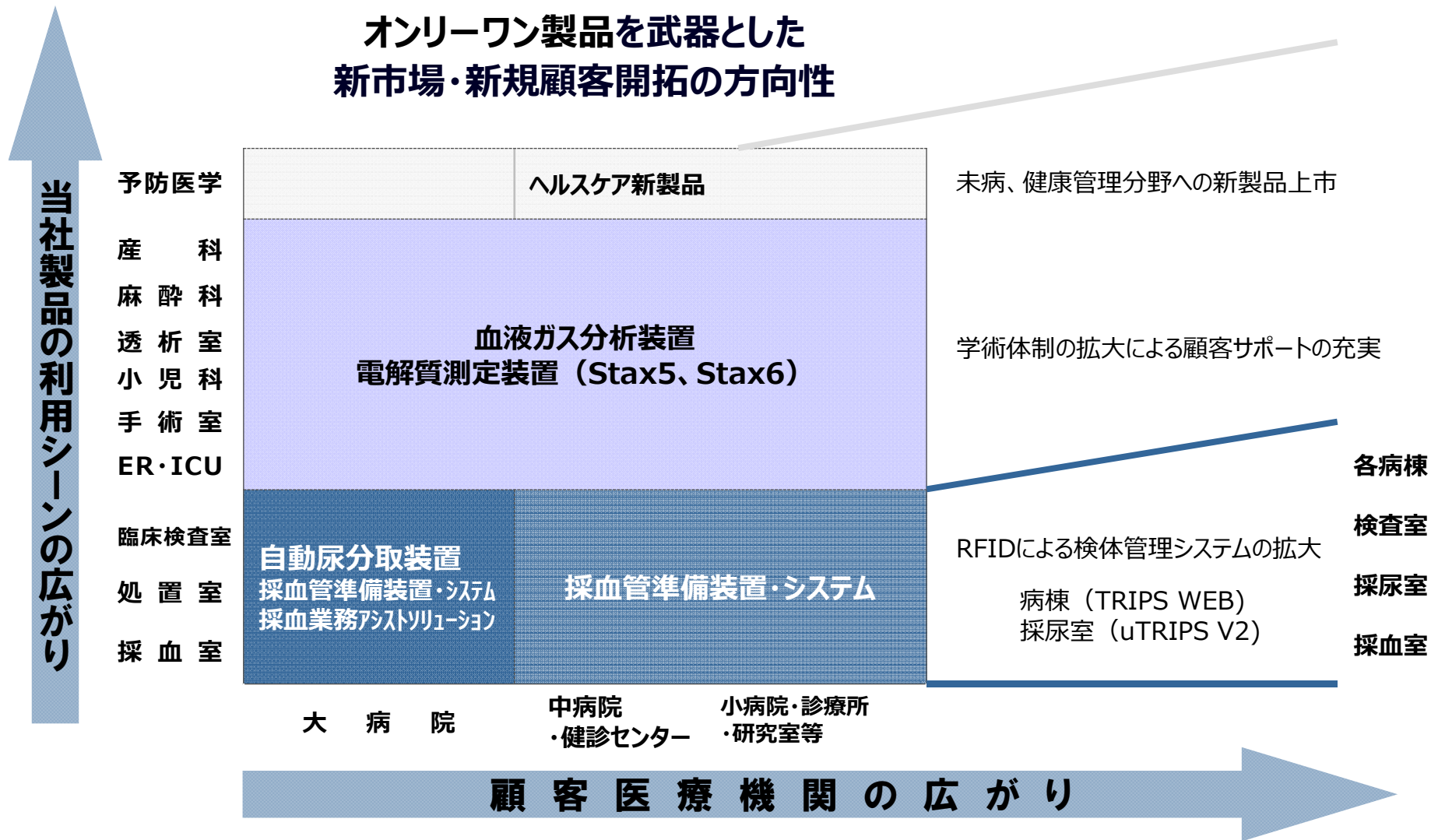
2. 採血管準備装置・システム

- ◆ RFIDソリューションで市場拡大（病棟採血、採尿、感染対策）
- ◆ 海外市場に特化した製品アイテムの充実化
- ◆ 国内採血管準備装置・システムは更なるユーザー要求実現のための体制強化
- ◆ IT技術の変化に伴う製品プラットフォームのアップデート

3. 検体検査装置

- ◆ 検体検査機器のための新型センサへの取り組み
- ◆ 学術的な顧客サポートの充実化
- ◆ 尿試料による未病検査システム(ICR-002)でのヘルスケア分野の展開
- ◆ 消耗品拡大への効率的生産環境の構築

オンリーワン製品を武器とした 新市場・新規顧客開拓の方向性



<注意事項>

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。